

東日本大震災からの子どもたちの復興

「学習支援の場で育つ子ども調査」からの報告

東日本大震災から4年を経過し、子どもたちの学校や家庭、地域での暮らしは、被災状況の違いのみならず、その後の家族、学校、地域での支えられ方によって、大きな差が出ていることが明らかになってきました。子ども一人ひとりの置かれている状況を丁寧に理解し、その状況に合わせた支援を行うことが求められているともいえます。一方で、子どもたちのなかにはこの4年間の自分たちの経験を語る事ができる子どもたちも出てきています。

こうした状況のなかで、被災地で中高校生を中心として学習支援に関わってきた7つのNPO団体が、子どもたちひとりひとりの実態を把握し、支援につなぐための支援方法を開発するために、また、その実態から震災における支援としての学習支援の重要性を子どもたちの声として積み上げて、当事者の声として作り出すために、東洋大学福祉社会開発研究センターを調査研究の母体とし、調査票の作成から実施方法を一緒に検討し、約150人の小学校5年生以上の子どもたちにアンケート調査をしました。

調査では、学習支援の場で支援にかかわるものが行い、利用する子どもたちの実態に向き合い、子どもたちの周囲の人間関係や、支援の存在や、将来の希望まで明らかにしています。あの日から5年目を迎え、子どもたちが語り始めた震災からの復興の現実を踏まえて、一緒に今後の支援の在り方を考えたいと思います。

日時 2015年3月22日 (日) 12時30分 開場
プログラム

13時 開始 挨拶

13時10分 アンケート調査について
子どもへの調査結果報告

清水 冬樹 旭川大学短期大学部

被災地の支援者から見た調査結果の特徴

片貝 英行 キッズドア東北事業部

14時10分 被災地での支援者研修の進め方

植木 信一 新潟県立大学

14時40分 共同討議

《オブザーバー》

川鍋慎一 (厚生労働省東日本大震災子ども支援室長)

川松 亮 (厚生労働省児童福祉専門官)

15時40分 提言

16時 終了予定

総合司会

森田 明美

東洋大学福祉社会開発研究センター長

東洋大学社会学部教授

東日本大震災子ども支援ネットワーク事務局長



場所 東洋大学白山校舎
8号館7階125記念ホール
東京都文京区白山5-28-20
都営三田線 白山駅 徒歩8分
東京メトロ南北線 本駒込駅 徒歩8分

参加費・申し込みは不要です

主催：東洋大学福祉社会開発研究センター

《調査研究参加団体 (順不同)》

NPO法人子ども福祉研究所 NPO法人ビーンズふくしま、NPO法人TEDIC、
NPO法人寺子屋方丈舎 NPO法人しんぐるまざーずふぉーらむ福島 NPO法人キッズドア
一般社団法人子どものエンパワメントいわて：E←pa+ch (イーパッチ)

【事務局・問い合わせ先】

東京都文京区白山5-28-20 東洋大学白山校舎2号館608号

森田明美研究室 TEL/FAX 03-3945-7481 Mail: morita@toyo.jp

NPO法人キッズドア 担当：吉川、片貝

Mail: katakai@kidsdoor.net FAX: 050-3000-2077

携帯 080-3148-6696 (吉川)、080-3337-9893 (片貝)